



mumon
welfare

ひと、
ひらき、
きらめく



「特集」

新しい社会的価値 part2

「むもんビッグニュース」

むもん北海道農場始動！

「教えて！ドクターM」

ウイルスと細菌

2022

Summer

無門福祉会広報 vol.148

〔発行〕社会福祉法人無門福祉会

〔発行責任者〕三浦孝司

岩田

農で地域を活性化するという福祉にしか出来ない農業が農福融業ですよね。むもんが農業をやっているとスポーツチームや企業、学校とか大きな団体とも繋がれて仲間が増えて、それがまた利用者のモチベーションになって相乗効果が続いていく感じがします。

中本

関わる人みんなが幸せな事業になっているよね。農家さんではなかなか難しいけど、福祉が農業に取り組むことで私たちの専門である利用者の働きがいはもちろんだけど、地域課題の解決、六次化、企業との連携、雇用の創出など新しい事業の在り方が見えてきた気がするね。

テーマII 農福融業を進める先には

川井

企業連携はボランティアで無門福祉会の農作業を手伝ってもらっただけではなく、むもんの畑で企業や地域の人たちと共同生産みたいな仕組みにできるといいなと思います。地域にみんなの畑がたくさんできるともっと新しい出会いや利用者さんの活躍の場面が増えて面白くなりそう。

岩田

固定種の種を繋いでいくこととか農地を守っていくことはその時はお金が生まれにくい、非効率で価値がないと思われるけど、未来に繋いでいく上ですごく大事なことだと思うので、そういう農業が持つ社会的な役割みたいな部分も福祉が担っていけるといいのかなと思います。

古谷野

農業だけでなく一次産業と言われる漁業や林業も福祉と融業したら事業として成り立つのかもしれないね。自然相手で機械化が難しい人の手に頼る産業はどうしても取り残されていってしまうと思うけど、そういう産業こそ福祉の手で守っていけるといいよね。



むもんカンパニー青い空
岩田



むもんカンパニー
中本

中本

豊田という町は日本の縮図と言われていて、都市部の人口増加と中山間地域の過疎化が問題になっています。豊田市から農福融業という新しい事業の在り方を広めて、地域が盛り上がることで日本の課題解決のモデルになれたらと思います。

福祉と農業の二つの凸凹が一つに合わさった時に、農業が福祉の抱える様々な課題を解決し、福祉もまた農業の抱える様々な課題を解決して「農業は福祉」という言葉が本当にうまく当てはまると思います。

お互いのやりたかったことの二つが組み合わせることで実現することはまさに融業です。課題解決だけじゃない相乗効果も広がってきていると思います。

「農業って楽しい」

そんな広がりが出来たらもっとたくさんの人が繋がっていいのではないのでしょうか。

新しい 社会的価値 New Social Values

02



無門福祉会は自然栽培を通して地域の現状や課題を見つけ、今後どういう未来が私たちにとって幸せな社会になるかを考えています。

障がい者だけが生きづらいわけではなく、みんなが生きづらい社会になってしまっていないだろうか。障がい者の自立支援や自然栽培の活動、地域社会の課題に対して日々向き合ってきた無門福祉会が考える「新しい社会的価値」を職員で話し合ってみました。

座談会
テーマ

兼業農家から農福融業へ

今の日本の農家は農業による売上額100万円未満が50%以上を占めると言われています。農業だけで暮らしていくことが難しい時代です。農業の担い手不足は日本の大きな課題とされています。

私たち福祉分野が農業に参入することで、障がい者の働く場と担い手不足が同時に解決される「農福連携」は近年注目を浴びています。

ですが、福祉という専門分野に農業という異なる事業が組み合わせることで、それだけではない相乗効果が生まれ、新たな産業としての可能性を感じます。今回は農福融業という新たな産業の可能性をテーマに話してみました。



障がい者支援施設むもん
古谷野



事務局
川井

テーマI 障がい福祉と農業のマッチング

古谷野

障がい者支援って利用者が社会の中で自分の強みを生かして活躍できることだと思うから、生きる上で必要な農業は利用者が働きがいを感じる場として最適だと思う。みんなでお米や野菜を作っている活動自体が支援なんだよね。

川井

農業と併せることで福祉サービスの目的も実現できて一石二鳥だよ。あとは利用者の活躍じゃなくて、担い手不足解消や休耕地再生とか地域の課題にも目を向けるきっかけになったと思う。地域にも課題があって、障がい者だけを支援していても障がい者が地域の中で生き生き暮らすことは出来ないなっていう気づきにもなったよね。

むもん北海道農場始動!



2022年5月22日に新たな試みとして、北海道安平町にある自然体験農園とあさ村の畑を借り、むもん北海道農場の第一歩としてジャガイモの植え付けを行った。

きっかけは、自然栽培パーティーの仲間でもあさ村と何か連携ができないかと考え、まずは栽培を実践しながら連携を図っていく事とした。自然体験農園とあさ村は知的障害と自閉症のある息子の高等部卒業をきっかけに、地域の自然、ハーブや農作物の栽培を通して障害があっても地域の人と共に暮らせる居場所作りを実現させようという想いで立ち上げられ、北海道の気候風土に合わせた作物「ポニーヤギ、鶏など様々な動物たちを育てながら母親と息子の二人で運営している。

当日は数名の無門福祉会の職員で、午前中に手作業での耕起、じゃがいもや大豆の定植を行った。周りの農家の方からは、そのスピード感に驚きの反応があった。このむもん北海道農場の野菜は、順調に育てば秋頃に収穫予定だ。北海道は冷涼で乾燥した土地柄のため、愛知県と出荷時期をずらして栽培できることも強みだ。

参加した職員からは「北海道での農作業はとても貴重な経験になった。行動することの大切さを感じた」と無門福祉会の新たなチャレンジに期待を膨らませた。

とあさ村での暮らしは無門福祉会の求めている、農ある暮らしに近く、今後への学びとなった。また、職員が広大な自然にふれることでリフレッシュにもなり、知らない土地で共同作業をすることで職員の団結にも繋がると考え、職員研修に繋げていく方針だ。

パーティーの仲間は全国にいて、いろんな連携の仕方があり、いろんな楽しいことが待っているのではとワクワクする。まずは北海道産のむもん野菜の収穫が楽しみだ。



集合写真:地元の地域おこし協力隊の方も一緒に植え付け作業を手伝った(真ん中上)。村長青木さんの息子さんは動物の世話や集卵などを生活の一部として取り組まれていた(左下)。



私たちの暮らしに関わること、環境のこと、様々な疑問を興味津々ムモンガがドクターMに聞いていきます。

ムモンガ

無門の裏山に生息するムモンガの妖精。自然栽培で作った野菜や果物が大好き。



ドクターM

この道30年の自然栽培博士。トレードマークは頭のM。



今回のテーマ

「ウイルスと細菌」

免疫力を高めることでウイルスに負けない体をつくるのが大切ですが、そもそもウイルスや細菌ってどういう存在なんですか。今号ではそんな疑問についてドクターMに教えてもらいます。

ウイルスや細菌ってそもそも悪いものなの？



いろんな病気が流行ったりすると除菌や殺菌と言って、ウイルスや細菌自体が悪者扱いされがちじゃが、人の体内には何億という菌が住み着いておるし、むもんが取り組んでいる自然栽培では多くの菌が野菜の成長を助けておるんじゃよ。ウイルスの実態はまだまだ分からないことが多いんじゃがたくさんの種類があり、生き物が進化する過程で重要な役割を果たしていると言われておるんじゃ。



必要なウイルスや細菌がいるってこと？



腸内細菌で有名な善玉菌と悪玉菌があるが、悪玉菌は増えすぎると便秘や下痢になるけど悪玉菌にはたんぱく質を分解する役割があって無くなると困ってしまうんじゃ。体内の常在菌はそれぞれがバランスをとっており、葉などによって増えすぎたり減りすぎたりすると感染症リスクやアレルギー反応がでたりすることがあるとも言われておる。あるウイルスは胎盤形成に関与しているという研究もあり、単に悪者扱いしてよい存在ではないように感じるのう。








そうなんだ。目に見えないから何か怖い存在だけど、必要なウイルスや細菌があることが分かって少し見る目が変わったかな。



MY 行動宣言

生物多様性を守るために
私たちにできる5つのアクション!

- Act 1  地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。
- Act 2  自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれます**。
- Act 3  自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。
- Act 4  生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。
- Act 5  エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。

つなげよう、 支えよう 森里川海

無門福祉会は環境省の森里川海プロジェクトに賛同しています。このプロジェクトは国民全体で「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」「一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくること」を目指しています。このコーナーでは MY 行動宣言に沿って、地元の旬の味覚や素晴らしい自然をお届けします。

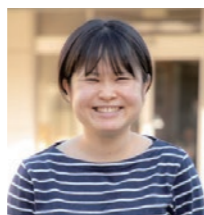


藤井 史子

- むもんカンパニー青い空所属
- 勤続17年

森里川海の活動を知って私が一番身近でできる事として、自分が日用品や食品を購入することが多いため、どの商品にエコラベルが付いているのかを確認するようになり、それが自分に合った商品の場合そちらの商品を選んで購入するようになりました。自分の家にあるエコマークを集めたら主に多いのはFSCマークで再生紙の紙を使った商品でした。乗っている車はハイブリット車でエコマーク商品でした。

環境省が、6月21日に「クリーンライフ・ポイント」事業を発表しました。消費者が環境配慮商品やサービスを選択した場合にポイントを発行するプロジェクトで、支援を通し消費者の環境配慮行動を促す事を目的としています。いつも利用するイオンでは、プラスチック製のカトラリーの受け取り辞退に対してポイントの発行がされます。今後、それ以外にも自然に配慮した商品を購入した時や量り売りで商品を買った時などポイントが付けば嬉しいなと思います。



星野 真希

- 障がい者支援施設むもん所属
- 勤続9年

夏の暑さ到来で、スーパーなど様々な場所で夏が旬な果物を見掛けるようになりました。私は昔から果物が大好きで、家の冷蔵庫には常に何かしら果物が入っています。夏の果物といえばスイカやメロンなどいろいろありますが、中でも桃は特に好きな果物の1つです。甘い味や香りだけでなく、見た目の可愛さも魅力だと思っています。

私は仕事を始めて豊田に引っ越してきました。それまで桃が豊田の名産品であることを知らなかったため、近くに桃畑が広がっていることや直売所がいくつもあることに驚いたことを覚えています。調べてみると豊田の中でも猿投地区は「モモの里」と呼ばれ県下有数の生産量を誇るほど、桃の栽培が盛んな地域であることを知りました。もしかしたら小さい頃に食べていた桃が猿投の桃だったのかなと思うと、今自分がその場所で暮らしていることを嬉しく思ったりもします。



MUMON
農で広がる 福祉の輪

いっしょが たのしい

Part
01

農業こそ福祉 私たちはそう考えています

むもんが自然栽培に取り組み始めたのは2014年のこと。地域で借り受けた休耕地を耕し、利用者・職員が一体となって作物を育てています。畑は365日、変化の連続。土に触れ、草や風の香りを感じながら働くことは、障がいに関係なく、人間そのものと相性の良い営みであると感じています。そんな自然栽培の現場には、人それぞれの個性が活きる仕事がたくさん。障がいのある人が地域の中でいきいきと輝く姿が、福祉が目指す一つの形であると考えています。



共に汗を流す、地元の農家さん。農作業を手伝ってくれるボランティアさんや、一緒に生きものや土に触れて楽しむ子どもたち。いつも声をかけてくれる、畑の地主さんやご近所さん。作った野菜を、おいしいと喜んでくれる人たち。むもんを輪の中心に、たくさんの人とのつながりが広がっていきます。

「いっしょが、たのしい。」

畑から見てきたのは、人の笑顔が地域を循環していく、優しい風景でした。自然栽培を通して広がっていく福祉の輪。そんな日々の1シーンを、次号からお届けしていきたいと思っています。

自然栽培で広がる
さまざまな人とのつながり

こころ 耕Life 掲載記事

豊田市を中心に15,000部発行・配布されているフリーペーパー「耕Life」に掲載されました。より多くの方々に「むもん」の活動を知っていただくことを願っております。



MUMON Work Friends!

東別院暮らしの朝市



History

ヒストリー

はじめは、自分で作った野菜を販売しようと思ったのがきっかけでしたが、せっかくなら「野菜だけでなく手作りの品も置いて、子どもからお年寄りまでたくさんの人が集まる場所にしたい!」そんな想いで2011年3月に、愛知県あま市で「甚目寺観音づくり朝市」が産声を上げました。徐々に盛り上がりを見せる中、2013年に名古屋市の真ん中にある大きな東別院で2つ目の「東別院づくり朝市」を、ご縁をいただき開催することになりました。2020年7月には、暮らしを豊かにするアイデアと人とのつながりが楽しめる「東別院暮らしの朝市」としてリニューアル、愛知県最大の朝市にまで発展を遂げることができました。

Thought

想い

野菜の生産者や手作りの工芸品を売り買いする場を通して、作り手と買い手がつながり、個々人がその地域で安心して暮らしていける基盤を作ってってもらいたい、という願いがあります。多くの方が訪れる朝市の想いも大切にしつつ、「もっと身近に、暮らしに寄り添って畑と食卓をつなげたい」そうです。



Event info!

東別院暮らしの朝市

開催時間 毎月8日、18日、28日 10:00~14:00
住所 愛知県名古屋市中区橋2-8-55
 真宗大谷派名古屋別院(東別院)境内
アクセス 名城線「東別院」駅4番出口より西へ徒歩3分
H P <http://higashi-asaichi.jp/>



無門福祉会
Facebook

※むもんは不定期に出店をしています。
 出店情報はFacebookをご参照ください。
<https://www.facebook.com/mumonfukushi> (社会福祉法人 無門福祉会)

— むもんに縁のあるお店や団体を紹介します —

むもんの

縁

カキ氷の手作りシロップを作るにあたり、津島市でカキ氷屋を営んでいたINUUNIQ VILLAGE(イニュニック・ヴィレッジ)さんに協力していただきました。

店主の飯尾さんは東別院暮らしの朝市の主催も行っており、農福連携ブースでの出店依頼という経緯で声を掛けていただいています。

Concept

マルシェの紹介

真宗大谷派の宗祖“親鸞聖人”のご命日(28日)を縁として毎月「8」のつく日(8日、18日、28日)に境内で開催されています。有機無農



薬の野菜、手作りのパンやお菓子、家庭料理、雑貨など様々なこだわり商品のお店が、各回約100店舗を超える出店をしています。

編集後記

今回の特集でむもんが考える新たな価値観として「農福融業」に触れました。農業は大切に続けていきたいけれど、様々な問題により持続が難しい。そこに福祉が入ることで日本の農業を維持できるだけでなく、新たな価値観が生まれています。畑で農作業をしていると地域の方から困りごとの相談を受けることがあります。むもんは困ったことがあると話を聞きたくありません。そして、そこがむもんのストロングポイントであり、私が好きなお店です。(古谷野)

無門福祉会

〒470-0376 豊田市高町東山7-43 TEL: 0565-45-7883 FAX: 0565-45-7886
 E-mail: info@mumon-fukushi.net Web: <http://mumon-fukushi.net/>